

保育おおさか

No. 436

平成 23 年 12 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪府中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahoiku/

第55回 全国保育研究大会 特別講演

コミュニケーションへの希望

— 子どもに自信と意欲を —

第55回全国保育研究大会が11月2〜4日、パシフィコ横浜ほかを会場に開催されました。特別講演、基調報告(2面に掲載)をはじめ、第6分科会(2面に掲載)では、大阪府から小宮恵一氏(泉佐野ルーテル保育園園長)が「子育て・子育て支援のネットワークと保育所の役割」をテーマに意見発表。熱心な参加者と共に活発な意見交換が行われました。

特別講演では、佐々木正美氏(川崎医療福祉大学特任教授)が、研究の成果から、保育園における子どもの行動について講演。

最近の子どもは、赤ちゃん返り(退行)や、攻撃的(乱暴)な子どもがじわじわと増えてきており、これは紛れもなく、家庭における欲求不満の大きな証であると説明されました。

また、親の前と保育園とで見せる子どもの



講演する佐々木正美氏

秋の叙勲

秋のよき日の叙勲に 身の引き締まる思い

西山 梢 森口中央保育園 園長



紅葉の美しい今日のよき日に、はからずも秋の叙勲の栄に浴することができました。荘厳な皇居豊明殿で天皇陛下のお言葉をいただき、身の引き締まる思いでございました。

民間保育園から発信する

一地域とともにつながる子育て支援に

村川 早苗 社会福祉法人 寝屋川めぐみ保育園
子育て支援センター長



この度の受章は、私にとって身に余る光栄と心揺れています。

つながり合えた方々への思いを受け、代表して受けさせていただきました。子どもたちへの魅力と、どこまでも深く「保育」という素晴らしい仕事に導かれここまで続けることができました。子育て支援が「支援」のみにとどまらず、地域の中で自然な営みとして繰り返されることを目指し、いろんな方々とのつながりに支えられながら進めて参りました。

これまで良き理解者となり、後押ししてくださった多くの皆様方に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

姿の違いをとりあげ、親の前では良い子であるのに、保育園では手のかかる子どもが多くなってきたこと、長きにわたる多くの研究結果から、このような子どもたちは卒園しても、社会において手のかかる人間に

なってしまうことが多いと述べられました。また、アメリカのジャーナリストであるマイケル・ジレンジガー氏の研究を紹介し、日本における「ひきこもり」について言及。ひきこもりの原因の一つに、親子における愛着の欠落があると指摘。母親から無条件に愛されているということ、特定の人に抱く感情がしっかりと形成されてこそ、他の人への愛情や信頼を発展させ、拡げることが可能になると説明されました。



偶然は必然から起こるというけれど、高校生の娘から保育の時間にケガをしたと予期せぬ連絡。迎えが必要

と聞き、詳しい様子も解らないまま不安な気持ちで学校へ。着いてみると、当の娘は意外にケロッとしていたので、たいしたことはないんだとホッとしました。でも、病院の診察結果は、薬指先が骨折していたうえに、骨が突き出ていたため縫合が必要という重傷でした。

ケガをする1週間ほど前から、娘とは冷戦状態にあつて、その日も、お互いに無視した状態で家を出ていました。

今は入浴介護をしながら仲直りはできましたが、こんなことがなかったら、頑固者の私たちは、今でもいがみ合っていたのかも。

ケガの功名と言うけれど、痛い思いをし、まだまだ完治には時間がかかることを思うと、親としてどうだったの?と、懺悔の気持ちになります。

イヤなことを根に持ったり、相手のせいにしてないで、早期解決していれば、気持ちは楽になっていたかも。(編集委員 Y・N)

震災支援の取り組み、 「子ども・子育て新システム」 の課題など共通認識に

小川益丸氏（全国保育協議会会長）が、「保育をめぐる動向と全国保育協議会の取り組み」と題して基調講演。

東日本大震災による被災保育所等の支援に向けた全国保育協議会の取り組み、特に保育三団体被災地支援募金の取り組み、夏期の電力需給対策に伴う企業就業時間等の変更に対応する園長保育、休日保育事業の実施にかかる人員配置などの取り組みや課題について、厚生労働省に要望書を提出したことを報告されました。

「子ども・子育て新システム」については、すなわちすべての子どもへの良質な保育環境を保障し、子ども



小川益丸
全国保育協議会会長

各種表彰受賞者（敬称略）

全国社会福祉協議会会長表彰 （功労）

石橋 保子 千里聖愛保育センター
坂田眞由美 摂津さつき保育園
市橋 扶子 一乗寺学園
妹尾紀美子 はるか保育園
西浦 正義 ココアンジュ新家

全国社会福祉協議会会長表彰 （永年勤続）

山口 恵 稲荷学園
工藤久美子 稲荷学園
飯塚 則子 大手保育園
島村 富子 願行寺保育園
長田佐栄子 千里ニュータウン保育園
中塚 純子 天王保育園
岡本 伸子 山崎保育園
高橋久美子 石津保育園
井口イサ子 くずはあけぼの保育園
早川美由紀 くずはあけぼの保育園
尾山 智美 くずはあけぼの保育園
江藤 栄子 聖心保育園
乾 勝彦 大東みのり保育園
伊東美恵子 あいせん保育園
隅田 優 リボン会
藤本 和恵 高井田保育所
田畑利加子 若宮保育園
花田 英子 あおぞら保育園
守下 宣子 大宮第2保育所
辻 孝良 池尻保育園
石川 浩子 北阪保育園
齊藤 文子 坂門ヶ原保育園
奥野 絹恵 清水保育園
大橋貴美子 高鷲保育園
上野 光子 高鷲保育園
小尻 隆子 高鷲保育園
松井 史郎 松の木保育園
藤井 昭子 みずほ保育園
野田 紀子 いぶきの保育園
田中喜代子 清和保育園
坂元アツ子 保育所聖愛園
野島千恵子 保育所聖愛園
田中 美佳 保育所聖愛園

全国保育協議会会長表彰

中澤 洋子 たんぽぽ中条保育園
端野 秀人 私部保育園
小北 泰英 船橋保育園
谷 知樹 常称寺保育園
田畑利加子 若宮保育園
松井 史郎 松の木保育園
伊藤 裕子 国分保育園
土井 昭 天宗清見台園
池尾 潤子 くさべ保育園
野田 紀子 いぶきの保育園
中村谷淳子 なかよし保育園

を大切にする社会を実現するという全国保育協議会の基本に戻り、検討すべきである」と指摘。具体的に次の諸点を強調されました。

① 子ども園（仮称）は、児童福祉としての役割を維持。

② 制度設計は、財源確保と一体的に進める。（一般財源化は、これに逆行する）

③ 被虐待児童や障がいのある子どもなど、手厚い支援を必要とする子どもへの対応を強化・充実する。

第55回 全国保育研究大会 第6分科会

地域社会への貢献は、保育所に できること・できないことの コーディネートが重要

第6分科会では、小宮恵一氏（泉佐野ルーテル保育園 園長）が「子育て・子育て支援のネットワークと保育所の役割」をテーマに、子育て支援の拠点とし

ての保育所の機能と役割の拡充、大阪府知事認定を受けた地域貢献支援員（愛称「スマイルサポーター」）をはじめ、育児相談員の取り組みについて報告されま



小宮恵一氏

した。

小宮氏は、虐待、DV、生活保護、就労など多岐にわたる相談事業については、保育園から他の機関へ繋いで問題を解決するなどの取り組み事例を紹介しつつ、保育所が地域の社会資源と結びついた地域貢献事業として果たすべき役割について発表されました。

同氏は最後に、さまざまなノウハウを生かしながら大阪が先駆的に行っている「スマイルサポーター」の制度について意義のある取り組みと評価。しかし、同時に、「保育所に求められることが多様な今日においては、保育所にできること、できないことをしっかりとコーディネートすることが必要である」と指摘されました。（編集委員M・H）

街とともに呼吸し 地域とともに歩む

うれしい・楽しいを伝える
園児にとって第二のお家

茨木市

山手台保育園



たまにはこんな光景も



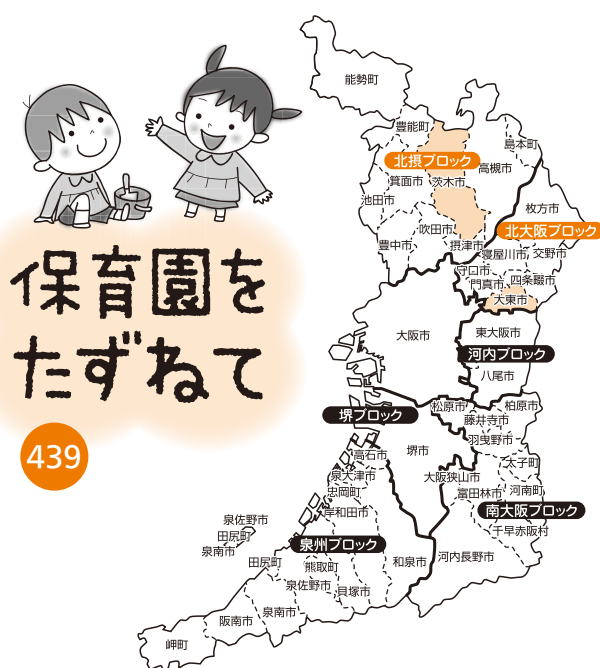
赤いお屋根の保育園

「一人ひとりを大切に」のびのびとした保育を行い、中でも特に心がけているのが「またせない保育」です。「またせない」とは、子ども一人ひとりのやりたい気持ち、やろうとする気持ちを大切にすることだそうです。普段の保育でつい口にしてしまいがちな「ちよつとまってね」という「またせる一言」を減らしていくために、保育者同士が連携を取りながら活動し、情緒の安定した生活ができるように配慮されています。

乳児は0歳児と1歳児の保育室がひとつになっていて、年齢やクラスではなく実際の成長に合わせた保育をしています。「うれしい・楽しい」という感動を伝えることが幼児保育であるとの考えから、時には職員によって発案される年間・月間の予定にな

社 会福祉法人晴誉会山手台保育園は、昭和53年に設立された定員90人の保育園です。平成18年に地域の名前を冠した現在の園名に改称されました。

平屋造りの外観でまず目に入る赤い屋根は、先代の理事長が作詞された園歌にも「あかいおやねのほいくえん」とあり、保育園のシンボルです。全ての保育室をつないでいる廊下は、全面がガラス窓。日中は暖かな日差しが差し込みます。木目調が多く見られる保育室からは、園児にとって第二のお家であって欲しいという思いが感じられます。



439

昭 和3年7月5日の設立から満83年になる住道学園は、定員105人の保育園。長い歴史を持つ保育園ですが、近くにある寺院「本傳寺」を中心に、近隣の子どもたちを預かったことから始まります。昭和41年に姉妹法人の幼稚園が近くに設立され、ともに地域の子育て家庭の支えとなり、乳幼児の「育ち」を応援しています。歴史があり、親子三代が卒園児という例もあるそうです。

仏教精神が保育内容の柱になっています。園の行事にも「花まつり」「報恩講」涅槃会などを取り入れてい



花まつり



信貴山へお泊り保育！

にも「花まつり」「報恩講」涅槃会などを取り入れています。園児にとっては、季節と自然の移ろいを感じ、日本の伝統に触れることができる貴重な経験の場です。宿泊保育では信貴山の宿坊を利用して。信貴山の境内を散策し、畳敷きの大広間で泊まります。厳かな雰囲気の中、みんな

仏教の精神を保育の柱に 信貴山での貴重な宿泊保育

大切にされる「元気」
地域の子育て家庭を応援

大東市

住道学園

音楽教育、英語、パソコン 伝統ある保育園の新しい保育

ゆきとどいた環境のなか
未来つくる力の基礎を培う

東大阪市

菊水園保育所



かわいいエントランス♪



色とりどりの園舎

器楽合奏などの団体行動から自然に身につく協調性や責任感・忍耐力・集中力を養い、豊かな感性を培うことができるとの考えから、全国でもめずらしいギター教室も導入しています。園児専用ギターを使った本格的なその内容は、日本全国

へ、また世界各国へと紹介されています。歴史ある保育園であつても、新たな取り組みがなされていきました。

(編集委員K・M)

平

成21年の公立民営化から3年目を迎えるかなおか保育園は、社会福祉法人堺曙福社会が運営する4番目の保育園で、南海高野線白鷺駅から徒歩約10分ほどの所にあります。

駅周辺では、複数のマンション建設が進み、今以上に保育ニーズの高まりが見込まれています。保育園の周辺には田圃や池が多く残り、園児たちは農道を散歩しながら四季折々の草花や昆虫探しを楽しんでいます。かなおか保育園は、「一人ひとりの子どもを大切にす

る保育」「子育ての喜びを保護者や地域の皆さまと共有しあえるような保育」を目指しています。一人ひとりの子どもが持つ「成長する力」を信じ、身近な素材で遊ぶことで、既成玩具では十分に培えない子どもの創造力を引き出しています。

人とのふれあいが、人に対する親しみや感謝の気持ちを育むとの考えから、地域の方とともに菜園活動をしたり、年長児が法人内の特別養護老人ホームに出向き、歌や体操を披露したりして世代間交流にも取り組んでいます。近隣の小学校から来園してくれる6年生の児童ら

(編集委員K・M)

が、保育園の3〜5歳児を相手に、伝承遊びや新聞遊び、園庭での集団ゲームなどを教えてくれるなど、交流を深めています。

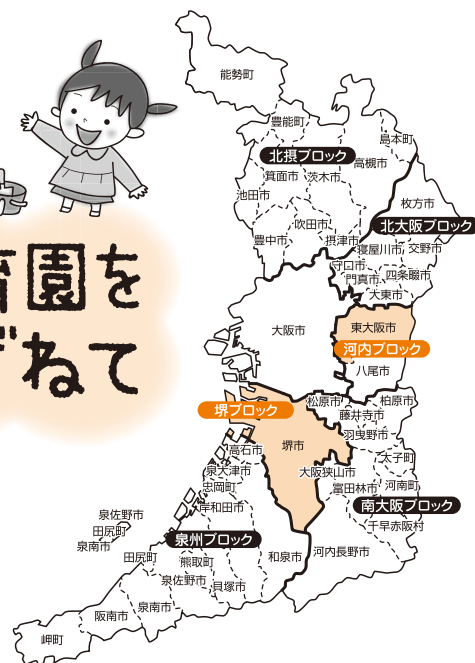
さらに、地域に受け継がれる和太鼓を保育に取り入れていきます。年長児が打ち鳴らす和太鼓は、運動会や地域での交流会などで発表され、保護者をはじめ地域の老若男女や子どもにも喜ばれているそうです。

る保育」「子育ての喜びを保護者や地域の皆さまと共有しあえるような保育」を目指しています。

が、保育園の3〜5歳児を相手に、伝承遊びや新聞遊び、園庭での集団ゲームなどを教えてくれるなど、交流を深めています。

保育園を
たずねて

440



菜園で収穫
今日のお昼は何か？



地域交流会で和太鼓を披露

子どもの「成長する力」信じ
人への親しみと感謝の気持ち育む

さかい子育て家庭支援事業園として
地域への貢献と交流すすめる

堺市

かなおか保育園



司会 災害対策についての特集をしてきました。言うまでもなく3月11日の東日本大震災を受けてのことですが、大震災以後、皆さん

(司会は齊藤和正編集委員長)

「災害対策」について4回の連載をしてきました。今回はその総括編として、本紙編集委員による座談会を開催。今後起こりうる災害に対して、保育園としていかに対応するか、今からでもできることなど、活発に意見交換。その要旨をご紹介します。



● 防災対策について ●

座談会

保育園は災害にどう対応するか
今からできること・すべきこと

B 私の園は海が近いというところもあり、避難経路を

A 私の保育園では、裸足の災害に対する意識は変わりましたか？
保育を実施していましたが、今回の災害を受け、上ぐつを使用することになりました。ガラスなどが飛び散った際にも速やかに避難できるからです。また、もしものためにも水は備えておいて損はないと考え5年間保存できる水を備蓄することになりました。

の災害に対する意識は変わりましたか？

(司会は齊藤和正編集委員長)

「災害対策」について4回の連載をしてきました。今回はその総括編として、本紙編集委員による座談会を開催。今後起こりうる災害に対して、保育園としていかに対応するか、今からでもできることなど、活発に意見交換。その要旨をご紹介します。

E 先日、保護者から「避難場所は保育園で良いのか？」と聞かれました。私

D 私の保育園は、比較的高台に位置していますからむしろ、近隣の方々や小学生の避難場所となるよう、準備しておかなければならないと考えています。

の園の場合、「避難場所は近くの小学校と指定されています」と答えましたが、保護者への避難場所の周知徹底の重要性を改めて再認識しました。

(司会は齊藤和正編集委員長)

「災害対策」について4回の連載をしてきました。今回はその総括編として、本紙編集委員による座談会を開催。今後起こりうる災害に対して、保育園としていかに対応するか、今からでもできることなど、活発に意見交換。その要旨をご紹介します。

確保することが重要であることを再認識しました。想定外の津波が襲ってくることも先の大震災で十分理解しました。いかに迅速に的確に子どもを避難させるか、会議の場などでも頻繁に話し合われるようになりました。



G 避難する場合、園舎のどの部分が被害にあっているのかによって、脱出ルートが変わってくると思います。日ごろの訓練では、いかにリアルティーをもって臨めるかがキーになってくると考えています。いま、一番問題視しているのは、災害対策において統一のマニュアルが作成されていないということ。〇〇が避難場所として指定されているが、被害の状況を見て「本当に〇〇に行っているの？」という事態も起こり得る。各自治体によっても、機能強化として購入できる備品が変わってくると思います。そういうことも含めて、各市町村でマニュアルの整理・作成を急ぐべきだと感じているところです。

(司会は齊藤和正編集委員長)

「災害対策」について4回の連載をしてきました。今回はその総括編として、本紙編集委員による座談会を開催。今後起こりうる災害に対して、保育園としていかに対応するか、今からでもできることなど、活発に意見交換。その要旨をご紹介します。

確保することが重要であることを再認識しました。想定外の津波が襲ってくることも先の大震災で十分理解しました。いかに迅速に的確に子どもを避難させるか、会議の場などでも頻繁に話し合われるようになりました。

H 保育園が「福祉避難所」に指定されることも考えられます。指定を受ければ、保育園を避難所として使用するための備蓄品などが必要になり、行政からの補助も期待したいです。

I 今回の東日本大震災においても、一般の被災者だけでなく、避難所には身体が不自由な方や認知症の方など、いわゆる「災害弱者」と呼ばれる方も多くおられた

るかによって、脱出ルートが変わってくると思います。日ごろの訓練では、いかにリアルティーをもって臨めるかがキーになってくると考えています。いま、一番問題視しているのは、災害対策において統一のマニュアルが作成されていないということ。〇〇が避難場所として指定されているが、被害の状況を見て「本当に〇〇に行っているの？」という事態も起こり得る。各自治体によっても、機能強化として購入できる備品が変わってくると思います。そういうことも含めて、各市町村でマニュアルの整理・作成を急ぐべきだと感じているところです。

(司会は齊藤和正編集委員長)

「災害対策」について4回の連載をしてきました。今回はその総括編として、本紙編集委員による座談会を開催。今後起こりうる災害に対して、保育園としていかに対応するか、今からでもできることなど、活発に意見交換。その要旨をご紹介します。

確保することが重要であることを再認識しました。想定外の津波が襲ってくることも先の大震災で十分理解しました。いかに迅速に的確に子どもを避難させるか、会議の場などでも頻繁に話し合われるようになりました。

誤字訂正とお詫び

前号「保育おおさかNo.435」に誤字がありました。次の通り訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

- ・5ページ保育のまど(61)の見出し2行目
(誤)「津波想定非難訓練」
(正)「津波想定避難訓練」

と聞いています。そうした方のためにも、保育園が積極的に「福祉避難所」として指定されればと願っています。
司会 保育園での災害対策も重要ですが、本誌8月号にも掲載したように、『保育園が、地域に対して何を提供できるのか?』という視点も大切だと感じています。今後も、地域に貢献できることを念頭に置きつつ、避難訓練など自園での災害対策に、今まで以上に力を入れていきたいと考えています。



河内

パワーあふれる
輝く生き方

―日野原先生
100歳記念講演会

日野原重明氏（聖路加国際病院理事長）の100歳記念講演会「命輝く生き方を学ぶ」が11月11日、東大阪市民会館で開催されました。

東大阪市社会福祉施設団体連絡会の主催で、福祉施設従事者や福祉関係者約1400人が参加しました。

「100歳になったらまた会いましょう」と、3年前に行われた講演会での約束どおり開催できました。

甚大な被害をもたらした「東日本大震災」の現場を日野原先生は訪問されました。多くの方との出会いを通して、人と人が手を取り合い、共に生きる大切さを忘れてはならないこと、「人間は運命に生きるものでなく、新しい環境（自然及び人間）



保育園児に囲まれて

を選択できる。自然との出会い、友人・先輩・師との出会いは、あなたの新しい環境であり、環境でああなたの人生が変わる「今日の出会いは運命が変わる」と希望に満ちたお話をされました。

第2部は、市内の私立保育園8カ園から参加した232人の園児と日野原先生のコラボレーション。わらべうた「なべなべそこぬけ」「はないちもんめ」、日野原先生指揮による合唱「上を

泉州

秋の長浜の
魅力を満喫！

1日研修でリフレッシュ

泉州民間保育協議会は11月8日、長浜方面への1日研修に50カ園・92人が参加しました。

暑い日が続いていたものの、当日はすっかり秋らしい天候となりました。2台のバスに分乗し、最初に「三井アウトレットパーク滋賀竜王」へ。1時間ほどでしたが、集合時には、皆さまさまざまな紙袋を持ち、満面の笑顔でバスに戻ってきましました。

料亭旅館「やす井」で美



料亭旅館やす井での様子

美味しい豆腐鍋の懐石料理をいただきました。高田テルミ先生（大阪府保育士会・泉州民間保育士会会長）が挨拶で、「昨年に比べて、やす井さんのお庭の紅葉が遅くて残念ですね」と話されました。

和やかに食事を楽しんだ後、左に琵琶湖を見ながらバスは湖岸道路を走り長浜へ。バスの中でいただいた散策マップを見て、目的場所を決めいざ「黒壁スクエア」へ。古い街並みを残し、古い建物を上手に活用した黒壁美術館やオルゴール館、カフェなど、長浜を満喫。

日々忙しく働いている保育士のリフレッシュにもなったと思います。

（杉の子保育園Y・S）

旬

何でも言い合える青春時代の友とのひととき
いろいろあった今年もあとひと月

10月の常任委員府外研修で、京の祇園の縁結びの寺（神社）で、願いごとが書かれた絵馬を見ると、「あの人と結ばれますように」など本来の願いごとの他、「○○（実名のよう）」とその手下が、目の前から消えて無くなり、まともな職場環境になりそうですように、母親らしく「○○が今の彼女と別れますように」などなど、冀人形如きの札も多数あり。一つひとつ読むと大変面白く、人の世のさまざまな人間模様が垣間見えて、また訪れてみたくなる。そして何より、高台寺の夜景の美しさに魅了された京都の一泊でありました。

さて、先月、5年振りに高校

と浜とが言い合いに！オチは、「どっちにしても、きれいな言葉やないで！」で、舜！

お互い何でも言える、青春時代の仲間とのひとときは嬉しい因みに、高校時代はボクシング部に属し、日タドツキアイを致

今年3月11日の東日本大震災・紀伊半島の大震災。加えて史上初の円高で、付加価値を高めて、外国にモノ売って食べれる国には酷な話。

タイの大洪水で、日本企業の工場も水に浸かって操業がでけ

の日本人の年末の挨拶が空しく聞こえてくるような気がしてならない。後ひと月で年が代わるが、昨年のタイガーマスク的な話題が出てくることを期待しながら、この年を締めくくります。

（H・N）